

あなたを最も近くで見守る神様の、見つけ方

氏神さまの調べ方

無人の社でも、必ず辿り着ける — 完全手引き



マツリメン

第一章

氏神さまとは、誰のことか

有名なパワースポットを遠くまで訪ね歩く人が、自分の家の氏神さまを知らない——実は、これが最も多い姿である。**氏神(うじがみ)とは、あなたがいま住んでいる土地を守る神様のこと**。その土地に住む人々は「氏子(うじこ)」と呼ばれ、昔から、人生の節目も日々の平穏も、まず氏神さまに見守られてきた。



探求者

賢者どの。正直に言いますと……有名な神社には行くのに、自分の氏神さまがどこの社なのか、知らないのです。



賢者

恥じることはない。多くの人がそうだ。だが考えてみよ——遠くの名医に年に一度かかるより、近くの主治医に月々診てもらう方が、体は保つ。神様も同じこと。**遠くの名社より、まず近くの氏神**。参拝の作法は、ここから始まるのだ。

呼び名	意味
氏神(うじがみ)	いま住んでいる土地の守り神。本書で調べるのはこれ
産土神(うぶすながみ)	生まれた土地の守り神。生涯変わらず見守るとされる
崇敬神社(すうけいじんじゃ)	土地に関係なく、個人の思いで信仰する神社(伊勢神宮、新屋山神社など)

※現代では氏神と産土神はほぼ同じ意味で使われることも多い。引越しをしたら、氏神さまも変わる。



■ こんまる知恵袋

氏神さまの範囲は「氏子区域(うじこくいき)」と呼ばれ、江戸時代からの町割りで決まることが多いこん。だから「**一番近い神社=氏神**」とは限らない——ここが、調べる価値のあるところなんだこん。

第二章

氏神さまの調べ方 — 三つの道

道	方法
壹 神社庁に聞く (最も確実)	お住まいの都道府県の「神社庁」に電話し、住所を伝え、氏神さま(氏子区域)を教えてもらえる。「(県名) 神社庁」で検索すれば電話番号が出る。受付は平日の日中が基本。
貳 近所の神社で聞く	社務所に神職の方がいれば、住所を伝えて「このあたりの氏神さまはどちらでしょうか」と尋ねる。その社が氏神でなくても、氏子区域を把握しておられることが多い。
参 地図で当たりをつける	地図アプリで「神社」を検索し、自宅から近い順に候補を挙げる。ただし最寄り=氏神とは限らないため、必ず壱か貳で確かめる。

■ 電話のかけ方(そのまま使える言い方)

「もしもし。〇〇市〇〇町に住んでいる者です。自分の住まいの氏神さまを知りたくてお電話いたしました。住所を申し上げますので、教えていただけますでしょうか。」——これだけで通じる。緊張は要らない。神社庁にとっても神社にとっても、氏子からのこの問い合わせは喜ばれる電話である。



探求者

もし、教えてもらった氏神さまに行ってみたら……誰もいなかったら、どうすれば。



賢者

良い問いだ。実は、それこそが本書を作った理由。——全国の神社の多くは、社務所に常駐の方がいない「無人の社」だ。だが案ずるな。無人の社には、無人の社の「辿り着き方」がある。次章で授けよう。

※ごく一部、神社本庁に属さない単立の神社などは神社庁で分からない場合もある。その際も次章の方法で辿り着ける。

第三章

氏神さまが「無人の社」だったら

社務所が閉まっていて、誰もいない——がっかりする必要はまったくない。無人の社の多くは、**近くの大きな神社の宮司さんが「兼務」で守っている**。つまり、必ず「担当の方」がいる。境内には、その手がかりが残されている。順に見ていく。

手がかり	見るべきところ
① 境内の掲示板	例祭・お祭りの案内、奉納者の芳名、そして「 氏子総代 」や「 宮司(管理する神社) 」の 名前と電話番号 が貼り出されていることが多い。奉納や氏子入りを考える人のための連絡先が書かれていたら、それが正解の入口。
② 社号標・寄進の刻銘	鳥居の柱、灯籠、社殿の改修記念碑には、寄進した氏子や工事に関わった社の名が刻まれている。「〇〇神社宮司 謹書」とあれば、その社が管理元(本務社)である可能性が高い。
③ 近隣の大きな神社に電話	「〇〇町の〇〇神社にお参りしたいのですが、こちらで管理されていますか。氏子について伺いたいです」と尋ねる。違っていても、 どこの社が兼務しているかは神社同士でご存じ のことが多い。
④ ご近所・自治会に聞く	その土地に長く住む年配の方や自治会・町内会は、氏子総代を知っている。「お祭りはどこが仕切っていますか」という聞き方が自然に通じる。



■ こんまる知恵袋

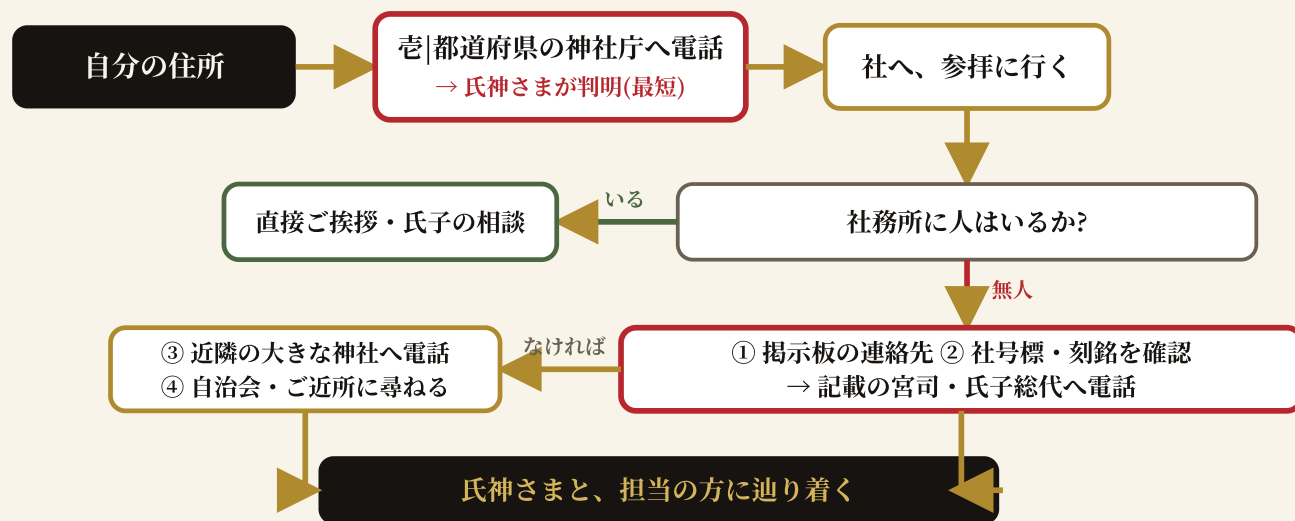
掲示板の連絡先に電話するときは、「奉納(または氏子のこと)でお伺いしたいのですが」と最初に言うとスムーズだこん。管理されている方にとって、氏子になりたいという電話は**社が**続いていくための、何よりの知らせなんだこん。

■ 賢者の心得

無人であることを、寂れていると読むな。**守り手が足りぬだけで、神様は変わらずそこにおられる**。むしろ無人の社にこそ、あなたという氏子が現れることの意味は大きい——その一歩が、社を千年先へ繋ぐ。

図解

氏神さまに辿り着くまで



第四章 見つけたあとの作法

初めての参拝

まずは名乗りと挨拶から——「〇〇町に住んでおります〇〇です。これからこの土地でお世話になります」。願い事は、その次でよい。

氏子になるには

社務所または氏子総代に申し出る。会費(氏子費)や例祭の案内など、社ごとの習わしを教えてもらえる。

無人の社でもできること

月に一度の定期参拝、賽銭、境内のごみを一つ拾う、例祭に顔を出す——**通う人がいること自体が、社を支える。**

CLOSING

結び — 近くの神様から、始めよう

遠くの名社を訪ねる旅は、素晴らしい。だがその旅の安全を、日々の平穏を、いちばん近くで見守っているのは、あなたの氏神さまである。

そしていま、全国の社の多くが、守り手の減少という静かな危機の中にある。無人の社に、あなたという氏子が一人現れること——名乗り、手を合わせ、時に掃き清め、祭りに顔を出すこと。それは開運の作法であると同時に、千年続いた祈りの場を、次の千年へ手渡す行いである。

この書を手にしたということは、もう、呼ばれている。



マツリメン

MATSURI MEN | 大人のスピ活

全国の「呼ばれる社」の物語は、YouTubeとLINE公式にて。
LINE友だち登録で、白狐こんまるより御札・御朱印を授与しております。

【おことわり】本書はマツリメンが独自に編集した参拝の手引きであり、神社本庁・各都道府県神社庁・各神社の公式刊行物ではありません。氏子区域・連絡先・受付方法は地域や神社により異なります。訪問・お電話の際は各社のご都合とご迷惑にならない時間帯にご配慮ください。本書は御利益を保証するものではなく、伝統的な作法についての一つの読みとしてお届けするものです。

MATSURI MEN 謹製 | 無断転載を禁ず